

7月29日&30日 中部・三重蜘蛛懇談会合同合宿に参加しました

## イシサワオニグモ？ トリフン？ どの蜘蛛見てもチンプンカンプン ...! ?

外山 孝司

まず何故私が蜘蛛懇談会の合宿に参加したのから説明しないとイケないようです。実は CAN の会員でもある釣友の菊池さんから、手取川の支流の瀬波川にイワナ&ヤマメを釣りに行かないかと誘われたのがこの発端です。



菊池さんが会員になっている中部蜘蛛懇談会と三重蜘蛛懇談会の合同合宿が7月29日(土)、30日(日)とあるので、その1日前に白山市に入って釣りをし、翌日からの合同合宿に合流しよう彼から誘われたのがこの始まりでした。私は蜘蛛にはまったく関心がありませんでしたが、どういふ人たちが参加するのか興味もありましたので、二つ返事でその誘いに乗りました。

ただし、お目当ての釣りの方は前日までの雨で瀬波川が増水していて、私は残念ながら釣果ゼロ、菊池さんは腹太のヤマメを5匹という結果でした。

翌日の昼過ぎ、蜘蛛懇談会の会員の皆さんが合宿先の温泉旅館「白山里」に集まって来ました。合宿参加者は私も含めて総勢13名。今回の合宿先が石川県白山市ということもあって、兵庫県、千葉県から参加の人もいました。

合宿は13時から簡単なブリーフィングがあり、13時15分から16時45分までの3時間半、瀬波

川沿いの山道を歩きながら蜘蛛の採取観察会を行いました。



上の写真は中部蜘蛛懇談会の会長の緒方さんがタモで捕獲した蜘蛛を採取用のビンに入れているところです。



私はどの蜘蛛を見てもチンプンカンプンでしたが、会員の方が教えてくれたところによれば、この写真の蜘蛛の名前は「イシサワオニグモ」で、山地に生息する美しい蜘蛛だそうです。

山道で蜘蛛を見つけると、顔を寄せ合って、眼を輝かしてじっと見つめ、喜々とする会員の皆さんに、こういう世界もあるんだとしみじみ感じました。



観察会の後、菊池さん（右）が差し入れの西瓜を会員の皆さんにふるまってくれて、喉の渇きが癒されました。今回の合宿の幹事の加藤さん（左）もお手伝いです。

ところで、夕食・懇談でこの日の予定は終わるかという、それがそうではありません。20時から1時間半、懐中電灯やヘッドライトをつけて徒歩で夜の観察会でした。



何と「トリフン」という名前の蜘蛛があちこちに大きな網を広げていました。独特の糸のたるんだような網で、獲物の蛾がかかると、糸が切れて垂れ下がったようになります。実際に狩りの様子も何度も見られて、一同大興奮。

そうして更に、宿に戻ると一つの部屋に集まって、蜘蛛談義や同定会で夜が更けていきます。同定会には各会員が各地でこの間採取した標本を持ち寄って来ていて、それらの標本を顕微鏡を覗きながら、蜘蛛図鑑などのデータと付け合せをます。



私は初めて知ったのですが、蜘蛛の名前は生殖器の形で判定するのだそうです。蜘蛛は自分の種を守るために、オスとメスの生殖器がちょうど鍵と鍵穴の関係になっていて、お互いが合わないと生殖できないようになっているんだそうです。そして、蜘蛛の名前を判定する場合は、特にオスの生殖器の形が重要だそうです。それはオスとメスが生殖行為をした後、オスはメスの生殖器の一部を噛み切ったりして傷つけ、同種の他のオスが生殖できないようにすることが多いそうで、メスを採取してもなかなか名前の判別ができないそうです。



そして、翌日の午前中は昨夜の観察会と同じ場所で観察会を行いました。草むらに、昨夜の「トリフン」を続々と発見 ...！！

とにかく、初めから終わりまで、見るもの、聞くものすべてが未知のことばかりで、びっくりしっぱなしの合宿でした。